

令和5年度 京都府立看護学校あり方懇話会（第1回） 概要

1 日 時 令和5年4月14日（金）16時00分～17時30分

2 場 所 中丹西保健所 講堂

3 出席者 別紙のとおり

4 概 要

議題

（1）京都府における看護師等確保・養成に関する現状と課題について

<主な意見>

- ・看護師の確保・定着は養成からの一連の流れであるため、基礎教育と臨床現場との連携は重要である。また、看護師確保のためには潜在看護師の掘り起こしも有効ではないか。
- ・北部地域で働く看護師にとって、自身のキャリアデザインやキャリアアップがイメージしにくい環境にあると思う。北部地域に定着してもらえるよう、働きながらキャリアアップできるための支援が必要と考える。
- ・京都市内の学生が北部地域に実習に行き、地域に密着した看護の良さを知ることによって、北部への就職を希望する学生が出てくるのではないか。
- ・舞鶴医療センター附属看護学校が閉校することだが、閉校すると養成数が減少することになる。北部地域養成校への入学希望者を増やす取組が必要ではないか。

（2）京都府立看護学校のあり方について

<主な意見>

- ・北部地域の看護師確保の観点から、府立看護学校において、舞鶴医療センター附属看護学校の閉校を踏まえた対応が必要ではないか。
- ・府立看護学校は優秀で信頼度が高い卒業生が多い。学生確保のためには魅力の維持・向上が必要であり、その手立てとして、研修設備や教育環境の充実、学費のサポートは有効ではないか。
- ・高校生だけでなく、中学生への早期からの情報発信を行い、看護師を志す学生を増やす取組が必要である。
- ・（他校では）入学希望者を確保する対策として、入試科目の工夫や、社会人の募集を増やすような取組がある。
- ・カリキュラム改正に対応して、シミュレーション教育の実施等、教育内容も高度化している。高度な教育を教授するために、教員の研修も必要であると考える。